





# 沖縄県2016年度がん登録 脳腫瘍（最新版）

- 沖縄県における脳・中枢神経系がん登録件数は221（2016年）でこの数は過去2年の21  
3件（2014年）、228件（2015年）とほぼ横並びである。人口10万当たり2.1  
腫瘍の発生頻度は1.54人（本県の1.40人と同等）が、過去3年間で神経膠芽腫72件、  
6）での腫瘍別頻度は成人では髄膜腫113件（18.3%）、神経鞘腫31件（5.0%）の順である。小児  
（11.7%）、下垂体腺腫64件（10.4%）、髄芽腫6件（1.3%）、胚細胞性腫瘍5件（10.8%）  
では悪性グリオーマ7件（15.2%）、頭蓋咽頭腫3件（6.5%）の順であった。これらの結果は成人、  
8%）星細胞腫4件（8.6%）頭蓋咽頭腫3件（6.5%）の順であった。これらの結果は成人、  
小児とも全国の脳腫瘍発生頻度に類似した傾向といえるだろう。
- 中枢神経系腫瘍の新WHO分類（改訂版第4版、WHO2016）では組織学的分類名と遺伝子異常が  
併記されるintegrated diagnosis（統括的組織診断）が一般的となった。遺伝子解析が実施さ  
れない場合はNOSと表記される。がん登録ではICD-O3が用いられているが詳細な組織診断がなさ  
れていないものにNOSが記載されている点やがん登録疾病分類（腫瘍学）においては脳・中枢神経  
系に頭蓋内原発悪性リンパ腫の記載がないなどWHO2016と違った分類方式である点に注意の必要  
があるだろう。
- 脳腫瘍はもともと診断が難しい上に、最近では悪性グリオーマに関しては遺伝子変化の詳細を解  
析しない確定診断に至らない。悪性腫瘍が難治性であることばかりではなく、良性腫瘍であって  
も再発再燃を来すことは稀ではない。本県では18施設中13施設で治療が行われているが今後治  
療件数が多くかつ治療水準の高い施設への集約化が更に進むものと思われる。